

今さら聞けない AI(9) AI の顔認識能力はどこまで？

3月のNHKスペシャルで、「映像の世紀×AI ヒトラーの隠された素顔に迫る」が放送され、視聴された方もおられると思います。

独裁者ヒトラーは膨大な公式映像を残した一方、自身を神格化するためか私的な姿をほとんど撮影させなかったそうです。謎多きヒトラーの素顔をあぶり出す鍵は、愛人エヴァ・ブラウンが撮影した4時間の16ミリ私的映像でヒトラーが信頼する人物との交流が捉えられています。フィルムの登場人物を特定するために公式映像 920 本120時間分をAIに学習させ、エヴァの私的映像とAIの組み合わせで、埋もれていた真実を探る試みでした。

顔の目や鼻、口などのパーツの位置関係を右写真のように、デジタルで数値化して、人物を特定します。その結果、485 人の人物が特定されました。中でも、下写真の中で黄枠で示されている通り、、ヒトラーのそばで屈託のない笑いを浮かべる中年男性がしばしば登場します。AI の判定からこの男は、ヒトラーの主治医テオドーア・モレルであることが分かります。そして、残されたカルテから、ヒトラーが最初はビタミン剤、戦況が苦しくなるにつれて麻薬注射に依存していたことが判明します。



一方、エヴァの私的映像は残念ながら、会話音声は記録されていません。そこで、耳の不自由な人のために活躍している読唇術師によって会話音声が解読されましたが、どうしても読み取れない部分については、AI解析で、ヒトラーと側近たちの会話が復元されたことも紹介されています。AIの威力で、歴史事実が補強されている訳ですね。

今日では、こういったAI技術は、犯罪捜査で、監視カメラの映像から、指名手配犯を特定したり、足跡を追跡することにも実用されています。最終的には捜査員の判断になりますが、自動で候補を絞り込めるメリットは少なくないそうです。一方、ビジネスでも、例えば、ショッピングモールの映像から、顧客がどんなお店のどんな商品に興味をもっているかの統計解析にも使われています。へたをすると、本人が知らない内に、その人がどこの誰でどういうことに関心をもっているか、私企業のデータベースにどんどん蓄積されていきます。個人情報如何に守るかが社会的課題になりそうです。

思うに、新しい科学技術には、必ず、「滋養」と「毒」が含まれていることをいつも念頭に置いておく必要がありますね。

(竹の台 西元)